

# シルバー通信

連協便り

平成 21 年度 活動計画に向けて

この一年間の SA 連協は、SA 地域のボランティア活動の情報交換および大阪府行政との連携を深めることに注力してきました。また組織外の狭山 SA グループとは、友好を深める中でネット化を推進してきました。

広報では、ホームページの地域別の特長を生かす取り組みを積極的に推進してきました。ホームページ作成の全体のスキルも向上し見やすいものに改善されました。シルバー通信は、初めてのカラー写真を取り入れ、読者の読みやすいものが発行できてきたと思います。

SA 連協の地域活性化に向けて会則を改定し、スリムで精鋭の集団体制を築き活動を推進していくことを企画委員会で検討し承認されました。

最も特筆すべきことは、将来の人材育成と組織活性化のために大阪府高齢者大学校に人材を送り出し、協働化を推進してきたことです。

その結果、平成 21 年 1 月 7 日 NPO 法人大阪府高齢者大学校が設立されました。大阪府高齢者大学校の講座を推進し、しっかりした楽しい学び舎を作らねばなりません。

大阪府高齢者大学校を推進する他のグループとは、7 月より毎月代表者によるプレゼンテ



第 39 号の 3 (平成 20 年度 - 3 号)

2009 年 4 月発行

大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会

連絡先 〒540-0012

大阪府中央区谷町 5 - 4 - 13

大阪府谷町福祉センター

06-6337-1085 (理事長宅)

U R L <http://sa-renkyo.com>

理事長 佐藤宏一 (吹田 18 期国際)

ーションを行い友好と理解を深めてきました。即ち

- ・大阪府高齢介護室介護支援課
- ・NPO 法人シルバーアドバイザー・ネット大阪
- ・NPO 法人ふれあいサポート
- ・大阪府高齢者大学同窓会連絡協議会

- ・NPO 法人シニア自然大学

今後も連携して人的交流を強化してほしいと思います。

大阪府高齢者大学校のシルバーアドバイザー養成・科目が安定的に開講でき、おおくの修了生を送り出すことができれば、地域 SA のボランティア活動の活性化に結びつくことになります。

大阪府は、このシルバーアドバイザー養成を NPO との協働事業として位置づけ、これまで同様、シルバーアドバイザーとして知事の認定をすることになりました。

私たちの目的である大阪府におけるシルバーアドバイザーの活動を振興し、ボランティア活動を推進し、「まちづくり」「子どもの健全育成」「高齢者の自立支援」「自らの生きがいづくり」などの地域社会への貢献を目指そうではありませんか。

## S A 連協および関連団体のイベント報告

広報誌部長 服部 早樹子 (大阪市 19 期福祉 IT)

### 第 6 回国際交流サロン

平成 20 年 12 月 4 日、千里文化センター「コラボ」2 階千里公民館集会場にて「第 6 回国際交流サロン」が開かれました。主催 N P O 法人シルバーアドバイザー・ネット大阪、協賛 豊中市教育委員会、(財)大阪府地域福祉財団、大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会の共催です。最初は Dr 山本ベバリー・アン(大阪大学大学院人間科学研究科講師)の「留学生の今」と言うテーマで講演会が有り、留学生の現状を話されました。今後大阪府高齢者大学校の講師にもなられるとの事です。其の後、各国から来られた 6 人の留学生が、プレゼンテーションを行い、各テーブルに 1 名ずつ加わり参加者と交流を深めました。全て日本語で、各国の文化、生活習慣を話され参加者も親しみを込めた

質問をされるなど終始和やかな雰囲気でした。最後、18 期国際交流コースの修了者が立ち上げた「ハーモニーシー合唱団」のコーラスで終了となりました。



### S A 養成講座 21 期生との交流会

12 月 8 日(月曜日コース) 11 日(木曜日コース)に大阪府 S A の役員と 21 期生との交流会が大阪府福社会館であり、最初に理事長の挨拶、続いて各地区会長の紹介がありました。

その後、21 期生と共に地域別に集まり、各地域 S A の活動を説明して 21 期生との交流を深めました。各地域とも予想以上の入会の申込みがあった様です。次年度の活躍が望まれます。



### N P O 法人高齢者大学校 設立記念式典・講演会

21 年 1 月 27 日(火)1 時 30 分よりクレオ大阪西にて高齢者大学校の設立記念式典と講演会が挙行されました。ほぼ満席に近い状態で始

まりました。船本副理事長の開会の挨拶に始まり、長井理事長が高齢者大学校設立に至る経過を、そして 3 月のイベントを事業の出発点とし

て、内容に於いて日本一を目指し運営していく抱負を話されました。又、募集案内配布直後に50人も応募があり、抽選も有りうると言う期待される力強いスタートを切ったと思います。その後、来賓の方々の紹介が行われ、大阪府介護室の坂上氏より橋下知事のメッセージ代読があり、アクティブシニアフェア 2008 の成功の話も盛り込まれました。後、役員紹介があり各担当部署の経過を説明され、永田副理事長の「日本一のモデルケースにしたい」と言う閉会の辞で締め括られました。

第二部記念講演会は大阪府特別顧問、元経済財政諮問会議議員の本間正明近畿大学世界経済大学研究所、阪大名誉教授、(財)関西経済研究所所長の講演が「これからの大阪はどうなる・・・高齢者大学への期待」と言う演題で講演されました。グローバル化された中で日本、世界情勢、経済事情、から、大阪の活性化、N

PO法人大阪府高齢者大学校を立ち上げた市民の力を話され、府民の期待に答える活動を称賛されました。

私達も身の引き締まる熱意を感じ、一層の活動の充実を思いました。



### 大阪府高齢者大学校

2月24日(火)2時からいずみホールに於いてパイプオルガンと「日本のうた 世界のうた」と題し大阪府高齢者大学校の設立記念音楽会が開催されました。

大変人気があり、当初からチケットは完売されていた様です。満席の下、安藤チャさんの司会により長井理事長の挨拶から始まり、「元気なシニアライフを豊かにし、府民の役に立つ継続性を目指し」と本日の開催旨を話されました。西垣千賀子さんと萩原寛明さんの軽妙なトークを交えた、私達も口ずさんできた馴染みの深い素晴らしい歌を堪能しました。

第二部は片桐聖子さんのパイプオルガンの演奏でしたが胸に響く様な音色で感動を呼びました。3625本のパイプを使っ

### 設立記念音楽会

ているそうで、グリーンで美しいオルガンでした。最後アンコールで「故郷」を全員で合唱しましたが、此の様な立派な音楽会を開催して頂いた関係者の皆様に深く敬意と感謝を申し上げます。



### 第21期生学習研究発表会

去る2月19日、23日、26日、3月2日、大阪府社会福祉会館5階に於いて計4回の平成20年度(21期生)の講座修了者の学習研究発表会がありました。

今年度はNPO法人高齢者大学校の立ち上げがあり受講生の皆様もいろいろと戸惑いも有った事と思われませんが立派な企画、運営、実行、発表力を見学し年々のレベルアップを感



じました。昨今の不景気をパロディー化したプレゼンもあり面白、可笑しくユニークな企画と感心しました。また、国際交流コース女性陣の各国の民族衣装には目を見張りました。

全グループがパワーポイントを操り技量充実したプレゼンであり、自分達だけでの発表では無く会場全体と一緒に楽しむと言う趣向が感じられます。又、今回を持ってシルバーアドバイザー養成講座最後の学習研究発表会と言う事で一抹の寂しさと感慨がありました。21期生の皆様には是非お住まいの地区に入会されS Aの活動と発展に寄与して頂く様に願っています。

### 【月曜日コース】

2月23日に「地域別交流活動」、3月2日に「専攻課程」の発表会が行われました。地域別交流活動では10時から実行委員長の挨拶から始まり、大阪A、大阪B、吹田、三島、豊能、午後から北河内、中河内、南河内、堺・大阪狭山、泉州と発表が続き、後、大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会の佐藤理事長の講評がありました。最後副委員長の挨拶で締め括られました。

3月2日の「専攻課程」の発表では10時から国際交流、「人の輪を心の輪に・一年間のあゆみ」と称され世代間交流の松井学級二一会の発表、午後からは健康増進地域活動専攻と続きました。最後専攻科目講師の講評があり、実行委員長の挨拶でシルバーアドバイザー養成講座最後の学習研究発表会が終了しました。立派な記念誌を作成され、英語でスピーチをされたかた、又豪華な民族衣装で声量豊かに母国語で歌われた方等皆様のこの一年間の受講の充実さと会員同士の心の交流の深さを改めて知り

ました。感動の発表会で皆様のボランティアに掛ける熱意に圧倒されました。

### 【木曜日コース】

2月19日に「地域別交流活動」、2月26日に「専攻課程」の発表会が月曜日コースと同様の形式で始まり、最初に実行委員長の挨拶から、大阪市B、吹田、高槻、三島、豊能、午後から大阪市A、北河内、中河内、南河内、泉州と発表が続き、後同様佐藤理事長の講評がありました。最後副実行委員長の挨拶で終了しました。

2月26日の「専攻課程」では福祉IT活用、世代間交流、健康増進、都市環境の発表がありました。大変綿密に調査され御苦労の程が忍ばれた発表もあり、社会参加の意義、自身の健康の大切さを再認識しました。世代間はどちらのコースも会場と一体となり明るく楽しい時間を過ごし手づくりおもちゃの面白さ、楽しさのボランティアの醍醐味を味わいました。先生の講評にもありました「最高の発表会であった。」という言葉が胸に響きます。



## S A 四條畷

### 第 1 回四條畷市ボランティアフェスティバルが開催されました！

平成 20 年 9 月 7 日（日）にボランティアフェスティバル実行委員の主催で第 1 回四條畷市ボランティアフェスティバルが四條畷市民活動センターで開催されました。

当日は、400 人を超える方々の来場があり、舞台、パネル展示、バザー、模擬店、体験コーナーも大盛況でした。

舞台では、落語、歌体操、車いすダンスがボランティアの皆さんで行われました。ボランティアフェスティバルでは主催者を構成している市社協と市ボランティア連絡会だけでなく、四條畷福祉会をはじめ福祉関係者の多くの皆さんの協力で開催されました。S A 四條畷も積極的に参加しました。中でもおもちゃ作りが非

常に好評で、子ども達も興味津々でおもちゃ作りに一生懸命取り組み、何時までも笑顔が絶えませんでした。

第 1 回四條畷市ボランティアフェスティバルではこの様な活動を行いました。

ボランティアによる舞台発表

模擬店・バザー・体験（おもちゃ作り等）

ボランティア、民生委員児童福祉協議会によるパネル展示

ボランティア情報提供

その他、「放課後子ども教室」の企画、運営・「子どもキッズランド」おもちゃ作り・四條畷市福祉課と共催による年末「凧づくり」等活動を行っています。



## S A ひらかた

### 子供達と一緒に凧作り

暮れも押し詰まった 12 月 25 日子供達、約 20 名とそのお父さんお母さんなどと枚方市の輝きプラザ、キララで本年度最後のおもちゃ作りをしました。

当日はどんよりと曇っていて、また年末で色々忙しい中、予定されていた参加者も全員そろい私達 S A ひらかたのメンバーも 10 名近

くの参加で凧作りを子供達と一緒に楽しく楽しい半日を過ごす事が出来ました。

当日の凧作りはメンバーの内 3~4 名が知っている状態だったため、開始時間より 30 分以上前に、会場に来てどのような手順で進めるのとか、竹ヒゴの結び方など話し合い、いつもの通り時間等はゆっくり取って進めるなど決めて



から凧作りに入りました。

会場の輝きプラザ キララの場所は京阪電車の枚方市駅からバスで約 15 分程行った関西外国語大学の跡地で中央図書館や教育委員会のオフィス、そして公園などがある広々とした一帯です。

今までにも小学校の休みのとき春休み、夏休み、冬休みなどに近くの子供達を対象にして、手作りのおもちゃなどを作って遊んでいます。

まず会場に入る時、子供達に好きな漫画のキャラクターの紙を選んでもらい、そのキャラクターに自分で好きなように色を塗ってもらいます。

まずキャラクターの絵を選ぶのが大変で男の子、女の子それぞれの好みがあるし、自分では決めきれずお父さんやお母さんにこれにしてはと、言われてやっと決まるなど子供達のいろんな違いを見ることが出来ます。

また色を塗るのは一番時間差が出ます。簡単に色を決めてサッサッサッと塗ってしまう子、ビックリする程ゆっくり丁寧に塗る子、そこまでは良いとして、色を何にしようかと迷い、5 分も 10 分も経っても最初に塗る色さえ決まらない子供もいるのです。

当然ながら全員がキャラクターに、色を付け終わるまでに次に進むという事になります。今回も小学校低学年の子供達が多かったとはいえ、タコ糸をヒゴに結ぶ事の出来ない子が 8 割以

上いたような気がしました。

お父さんお母さんと一緒に参加している子供が多いのですが、2 人~3 人の子供と一緒に場合は、メンバー皆が面倒を見るということです。色の付いたキャラクターの紙を貼り付け、タコ糸 3 本の芯をだし最後に足を付けて完了です。

そのころ外は曇り空だったのが、雨が降り始めており公園での凧揚げは出来ませんでした。屋根のついた広い空間があり、風も通りぬけていたので出来上がった順に遊んでもらいました。時間差はあったものの、全員作るとは出来、狭いところでやりにくい気はしましたが、凧揚げも出来楽しい半日でした。

又、春休みに子供達と一緒にになって、おもちゃ作りなど楽しみたいと思っています。



## S A 泉州南

### 私と竹笛

私が始めて竹で笛を作ったのは小学校の 4 年生のころである、当時は時代劇に使われる「呼子笛」をガキ大将に教えられ手を切りながら作ったのを思い出す。S A の講座を受けながら地元の S A 出身の人に連れられイベントに参加した時、鶯笛に人気があり早速見習い作る、市販のものを参考にしたが鳥型が精巧で手間がかかり子供には難しすぎる。

簡単にと考えたのは竹を輪切りにし大小を組み合わせボンドで接着する方法だ、早速次のイベントで試す、人気は上々で大人達も可愛い

田中 常夫 (13 期 世代間) と自信を得たが「泉州遊びの寺子屋」で鳴き方を教えている時テレビで鳴くホーホケキョで良いのか? 疑問に思い実際の鳴き声を聞く為に金剛山に出かける。5 月初旬ロープウェイ下の府営駐車場に車を留め以前、鳴き声を聞いた登山者の少ない五条林道を選ぶ。15 分ほど緩い坂道を登った頃、鶯の鳴き声が作業小屋のあたりから聞こえる。前方に私と同年輩位の人と挨拶を交わし追い抜く。作業小屋の先にある分かれ道で持参の鶯笛を出し鳴き方を真似し吹いてみる。

何度か笛を取替え吹く。最初は鶯も警戒して鳴くのを止めるが又鳴き出す。そこへ先ほど追い抜いた人が現れ、あんたが吹いているのかと言うので、鳴き方を覚えにきたと説明する。私も子供の頃に吹いたことがあると言うので、一つ進呈し二人で交互に吹く。お前さんが吹くと

鶯が逃げる、いや俺が吹くと近づいてくる、と年寄り二人が子供のようにしゃぎながら千早峠に着く。千早峠で昼食を取り、彼は伏見峠へ、私はそのまま下山する。彼が吹く鶯笛の音が次第に遠のいてゆく。あれから8年が過ぎ鶯笛を作るたびに思い出す。



竹笛一覧



遊びの寺子屋会 佐野公民館にて

## 大阪市 S A

服部 早樹子(19期 福祉 IT)

### 平成 21 年度新年互礼会

1月9日、大阪市 S Aの新年会がパル法円坂に盛大に開催されました。月例会担当は西ブロックで大変綿密な企画でした。西ブロックさんのお心遣いが忍ばれません。全員が飲み、食べ、語らい、ゲームを楽しみ、予定の2時間があっと云う間に過ぎてしまいました。又HP委員の前田さ

んによる大阪市のHP閲覧の時間を頂き、更新されたHPを皆さんに見て頂きました。

又、運の良い人は何個もお土産をゲットされましたが、全員に行きわたったお土産を手今年一年の計を祝しお開きとなりました。



### ディスコン大会

1月22日、今年度大阪市ディスコン大会を南ブロック担当で開催しました。お忙しい中 S A



八尾、S A北河内からもご参加頂き、総勢 45名の賑やかな幕開けとなりました。八尾の二葉会長も応援に駆け付けて下さり一段と熱がこもります。トーナメント形式の熱戦が続きましたが優勝は北ブロック、準優勝は東ブロックが制しました。昨年も北ブロック優勝でこの両チームは強豪です。本年からディスコンクラブとして発足しましたが、例年の月例行事として定着させたいと願っています。



### 歌体操委員会研修会に参加して

3月11日、大阪市歌体操委員会の研修会が行われると連絡頂き取材に伺いました。いきいきエイジングセンター3階の体育館で2時から5時まで有り、一面総鏡張りの立派なもので間違った動きをすればすぐに判り、緊張感漂う研修会でした。大変ご高齢の方も多くとお聞きしましたが、若々しく動きもきびきびされてまるで陸上のシンクロを見ている様でただただ感心して取材しました。日頃の練習の成果だと思いますが皆様の歌体操への熱意の素晴らしさに引き込まれいつの間にか一緒に参加していました。体も軽くなった事を実感しました。

又、一階ボランティアセンターに居られる永い間お世話になった方への謝意を表され、本日参加の全員と共に記念撮影をしました。



## S A いけだ

### 最近のボランティア活動から

「S A いけだ」の会員が、立ち上げた活動に傾聴ボランティア ” なごみ ” という部会活動があります。メンバーは、15名で、池田市内の介護施設(特養)4ヶ所を、毎月1回訪問して、各1時間程度 傾聴活動をしています。

この目的は、地域の高齢者、障がい者が、住み慣れた場所で、いきいき生活できるよう、よりよい人間関係を築くため、相手の話を受容、共感し、悩みや不安を自ら整理できる様、気づきのサポートをすることです。

僕は、昨夏より参加していますが、傾聴の文字の如く、耳で聞くのではなく、心を傾けて聞くという、なかなかむづかしいものです。まだ、複雑な問題を抱えた、悩ましい話などの事例には、遭遇していませんが、自分自身

和佐 義顕(19期 環境)

を考えさせられることが、多くあります。このところ、孤独になりがちな高齢者の方がたからの要望が、施設や社協から増えてきており、「生活意欲の回復」に貢献しているのではないかと、思います。

今後は、施設の高齢者だけではなく、人間社会の複雑化による精神的ダメージを受けた方などのケアにこの傾聴活動が、求められると思います。この活動は、理論に裏づけされた新しいS A(シルバーアドバイザー=シルアド)活動として、ふさわしい役割の一つではないかと思えます。

研究会活動で、事例検証を重ねたり、講師の指導を受けながら、研鑽を積んでいきたいものです。



## S A東大阪

### 無理なく、楽しくボランティア

三谷 正治(20期 環境)

S A東大阪では、会員それぞれの地域活動を尊重し地区連絡会の情報交換を行っており、その中で20期の地活交流グループ「S A東大阪アイリス20」は、受講当時から毎月続けている花園中央公園(花園ラグビー場)の清掃と、市のイベント参加を主に活動しています。又、昨年10月より地活、世代間修了生をリーダーとした「折り紙・おもちゃ研究会」を発足させ、活動の輪を広げつつあります。「無理なく、楽しくボランティア」をモットーに息の長い活動を目指しています。



アイリス20のみなさん

## S A河内長野

### 私達の活動

星川 幸次(18期 福祉IT)

私たちの仲間は30名です。これまでに培った経験や知識や技術を持った仲間が、集い、シルバーアドバイザーの講座で啓発された集団です。活動の内容は

- 1、中・低学年の子ども対象におもちゃつくりで放課後子ども教室に参加。
- 2、ドングリや川遊び等自然との遊びをする「天見子ども自然と遊びの教室」に参加。
- 3、お年寄りに電話をし、心の癒しを目的とする「ふれあい電話」活動。
- 4、「いきいき歌体操」で健康づくり活動。
- 5、中高年者のパソコン教室・農園栽培活動・囲碁、将棋サロンの「天見生きがいサロン」活動。
- 6、地域特養施設にアカペラ・舞踊・車椅子「施設慰問」活動。
- 7、「めだかの学校」各階層の講師を招き講演会の開催。
- 8、パソコン教室などを通じて、ふれあいの「楠の木ふれあい塾」
- 9、市民まつりやボランティアフェスティバル等市の行事や一部の青少年育成会行事に参加。と多岐に亘っています。

S Aの受講の科目の世代間交流、福祉IT、地域福祉、国際交流、健康増進、を縦軸に、横軸に河内長野市行事、生きがいつくり事業、慰問事業を行い、各会員は縦横の行事に自分ができる範囲で参加し、活動の範囲を広げています。

行政や、地域から支援要請があった場合、スタッフの日程調整が難しいのが悩みの種です。お互い許せる範囲で譲り合い、学習した科目以外でも各自が出来る事を協力しあっています。

大阪府の中で河内長野市は特色は自然にかこまれていて、子供たちの育成環境に恵まれている反面、山坂が多く高齢者に厳しい生活環境である一面を持っています。

これからもボランティアの要請が多くなると推察し嬉しい? 悲鳴です。

河内長野市は行政も公と民、民と民との協働を積極的推進しています。一昨年に市民公益活動支援センターが設立され一年が経過、活動の拠点が整備されつつあります。そこで様々なテーマ型のボランティア活動と自治会や町内会等の地域型の活動や学校・企業を含めた公益活動にシルバーアドバイザーが求められています。

今年から大阪府高齢者大学校も設立され、ボ

ランティアも、地域社会と共に大きく、広く包含した活動となって行くでしょう。是非私たち

S Aと情報の交換をし共に、更にいきいきしたS A大阪連協をつくりましょう！



ボランティアフェスティバル歌体操



加賀田フェスティバルおもちゃづくり

## S Aとよなか

### マイバッグ持参推進によるレジ袋削減を目指して

森田 一夫 (18期 地活)

スーパー等で買い物をしたときに貰うレジ袋って、どれ位の量かご存知ですか？

我が国では、年間 300 億枚(ひよっとすると 500 億枚)のレジ袋が消費されています。

幼児を除いて割算をすると、一人平均 300 枚です。都市部だけを考えると 400 枚を超えるのではないのでしょうか。

このレジ袋、中々の優れもので買い物袋の役割を終ったあともいろんなことに使われています。でも、沢山貯まってそのままごみとして捨てられているのが多いのです。大きなもので重さ 10 グラムですが、これを作るのに石油 20cc お猪口 1 杯が必要で、これだけで 70 ワットの電球を 1 時間点灯するだけの発電ができるとか、1 枚で CO<sub>2</sub> 発生量を 62 グラム抑制できるとか知ったら、どうしますか。

豊中市では、5 年前から「買い物にはマイバッグを持参して、レジ袋を貰わない」という取り組みが行われています。この運動を市民と事業者および行政の三者が協働して進めて行くために「豊中市マイバッグ推進協議会」が結成され、私は市民としてこの運動に係わって参りました。

豊中市内のマイバッグ持参率は、当初 20 ~ 30%であったのですが 19 年には 30 ~ 40%へと

向上しました。それには、ノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイさんが日本で感銘を受けた「もったいない」を MOTTAINAI として世界に呼びかけられたこと、19 年 1 月から京都市内で始ったレジ袋の有料化、そして身近な環境の変化が影響していると考えています。京都で始ったレジ袋有料化は、心配された客離れや苦情もなく、すぐにマイバッグ持参率が 80%以上になったことから、各地でレジ袋有料化が進められています。

昨年からは県単位での有料化が始り、富山県など 5 県で、市町村単位では 16 都道府県下の 242 市町村で既に有料化が行われています。残念ながら、大阪府下ではゼロです。大阪では、「タ





ダで貰っていたものがなんで」と理解してもら  
うのが難しいようです。

ごみの発生抑制としてスタートしたマイバ  
ッグ持参運動も、環境保全のために誰でもがで  
きるエコライフの一つとしての取り組みにな

## S A八尾

### 生かそうボランティア資源

わずか8名で再発足したS A八尾も、現在22  
名で活動しています。メンバーは八尾市を中心  
に、柏原市、東大阪市在住の方で、3期から20  
期までの講座修了生です。

月1,2回の定例会やVr活動で、各々が持つ  
ノウハウを紹介し、互いに学ぶことで、Vr資源  
も多彩かつ豊富となり、各々の活動に効果的に  
生かしています。また、ボランティアセンター  
からの依頼も多く、それに対応した活動も多彩  
に行っています。この様な活動が評価され、平  
成19年には市長表彰も受けました。また、こ  
うした個々の活動はもとより、2年前から、全  
員参加の活動展開も試みるようになりました。

その一つは、八尾市ボランティア連絡会等が  
主催し、毎年秋に開催される「ボランティア活  
動展」への参加です。市庁舎1Fロビーに30  
を越すボランティアグループのVr資源や、活  
動報告が展示され、広く市民に紹介されていま  
す。

二つ目は、同じく社会福祉協議会等の要請に  
より、一昨年に引き続いて、Vrのためのレク

ってきました。

次世代に良い環境を引継ぐのは私たちの責務  
です。みなさんのご協力によって、大阪もレジ  
袋削減達成都市になることを願っています。

平出 敏彦 (14期 福祉)

リエーション講座「ものづくり」を、受け持っ  
たことです。現在活動中のVrに生かそう、こ  
れからVr活動に取り組もうという40名程度  
の方々に、私達が持っているVr資源としてのお  
もちゃ作りを、受講者と共に楽しく行いました。

三つ目は、S A八尾としての初めての試みと  
して、「S A八尾ふれあいフェスタ」を平成20  
年11月3日に、八尾市民会館で単独開催し、  
八尾市長も来場されました。マジック・ディス  
コン・歌体操のアトラクションから、おもちゃ  
作り・折り紙・押し花作品作り・紙漉き・算数パ  
ズルまで、私達S A八尾のメンバーが持つボラ  
ンティア資源の一部を披露し、来場者の子ども  
や保護者の皆さんに、体験し楽しんでいただき  
ました。事前の広報が不十分であったことから、  
来場者が予想より少なく、次回への反省となり  
ました。

高齢者、障害者そして子ども達の自立支援は  
もとより、地域活性化の一助を目指して、個々  
の活動のみならず、S A八尾全体の活動にも一  
層力を注ぎたいと思っています。





### やってみよう「バルーンアート」

人には向き不向き適正というものがありますが、まずはポンプ、バルーンを購入して始めましょう。

思ったより難しくなかったという意見が多いのが初心受講者の声です。要はやる気があるかどうかです。どこの図書館でもバルーンアート関係の本の二、三冊は置いてありますし、パソコンで検索すればある程度のレシピは引けます。どんどん挑戦しましょう。

この時の進め方ですがあれもこれもと手を出さず一点集中的に反復集練習をしましょう。飽きてくると思いますが身体が覚えるまで同じものを繰り返し作り、十個作り九個まで同じものが出来る様になるまで努力して次の作品に進みましょう。



富田 邦男(17期 世代間) マスターする近道はこれですよ。またポスター、チラシなどでバルーンアートのあるイベントを捜し見学に行こう。見て覚えて帰り、忘れぬ内に反復練習しよう。くどいようですが初歩の基本を体で覚えましょう。ある程度腕が上がればこの作品にはどんな色がいいとか、目はどう書いたらより可愛らしくなるとか考えるようになってまいります。まずはここまでガンバリましょう。

イベント会場でバルーンアートを作っている我々の手元を見つめるあの真剣な眼差し、あの素晴らしい子どもたちの顔、バルーンアートをやっていて良かったと思う瞬間です。あの目、あの顔に会えるのは、次はいつかなと、ふと思うこの頃です。 合掌



### 読者の投稿

#### 楽しいを感じましょう

私達の世代のボランティアは、人と寄り添いひと時でも「楽しい」を感じる家族の温もりだと思っています。積み重ねてきた心の引き出しを、忘れられないうちに出し尽くすことではないでしょうか。黙って見守るだけでもよし、会話を楽しむも良

柳川 保子(茨木 17期地活) し、人はいろいろ目指すものが同じ方向であればいろいろの型が自然だと思い信頼することだと思います。移りゆく時代の変化を感じ、何が出来るのか仲間と語り合うことがなければ、只の「ジジ・ババ」の姿になってしまう。子どもと遊ぶには練

習も必要、身軽に見えるよう健康にも気をつけなければなりません。

老いていく身体をこの健やかな精神が守ってくれると感じています。

最近、人の良いところを感じる前にいやな部分が気になりませんか？

大を考えるより些細なことでイライラしていませんか？

真面目を取り得と勘違いし怒りっぽくなっていませんか？

助け合って楽しいと感じ合っていきましょう。



コマドリ (撮影：大阪市 西岡 稔)



クロツグミ (撮影：大阪市 西岡 稔)

## S A 養成講座担当講師の方からのメッセージ

### 福祉 I T 活用コース

N P O 法人シンフォニー  
深井 美智代

「 I T (情報通信技術) の活用により情報収集・発信や交流範囲の幅が広がり、高齢

者・障がい者の生活がより豊かになると期待されています。

誰もが安全で豊かに暮らせるまちづくりを推進し、よりよい地域の創造を实践する上で、地域福祉活動に必要な知識や援助技術を学ぶとともに、様々な I T の可

能性や、 I T を活用した新しいボランティアのあり方について考えていきます。」これが

福祉 I T 活用コースで学んでいただく上での基本目標です。



福祉というのは広義の意味で「しあわせ」や「ゆたかさ」を意味する言葉です。福祉とコンピュータは一見かけ離れた存在のように感じますが、高齢者にとって I T は、コミュニケーションの幅を拡大し、生きがいの創出につながる

ものであり、障がい者にとっては、基本的なコミュニケーション手段や社会参加など

の自立につながる大きな意義を持つものです。

学習の中では地域福祉とボランティア活動について、その現状を視察し、実習や体験を通じて、IT活用の実態と可能性を理解します。福祉支援技術の学習として音声読み上げソフトや Windows のアクセシビリティ機能などを実習。視察後の実践として、福祉施設や障がい者小規模作業所などのホームページ開設、更新のお手伝い、パソコン教室の開設、情報収集などITを活用して活発に地域課題に取り組まれています。

培ってきた技術や経験を活かし、仲間と互いに協力し合いながら、地域で生きたIT支援をしている受講生をみているとこのようなシニア層から地域社会が変わっていくのだと確信しました。

安全で 楽しく 継続的に

## 健康増進コース

安全で 楽しく 継続的に

三宅 基子

平成 17 年介護保険法の改正によって、介護保険制度は寝たきりを防ぐ介護予防に重点が置かれてきています。

高齢者が健康をできるかぎり維持し、一日でも長く住み慣れた家で暮らし続けることは、その人の QOL を高め、生きがいのある高齢期を実現することになります。

地域に暮らす高齢者が生きがいをもって自立生活を送り続けるには、「自分の行きたいところに 自分の好きな時に 自分の足で歩いて行ける」ことだと考えます。「自分の足で歩くことができる」ことをできるだけ長く維持するためには、身体機能を維持するための健康づくりへの取り組みが不可欠です。

シルバーアドバイザー養成講座健康増進コースでは、このような健康づくりの取り組みを地域のあらゆる場で、住民がともに支えあいながら展開していくために、基本的な知識と指導

技術を学んでいます。

地域のあらゆるところで介護予防を目的と

した健康づくりの場を広げていくには、行政だけではなく、地域で暮らす住民だからこそできることがたくさんあります。隣近所に暮らす住民だからこそ、運動から遠ざかっている高齢者に健康づくりの大切さを伝え、実施に向けた

サポートができると思います。

こうした日常的な健康づくりの活動は、自らが楽しく健康づくりを行いながら他者に伝えていくことが重要です。したがって1年間の健康増進コースでは、まずは自分の健康づくりの取り組みを考え、実際に実践しながら楽しく行っています。さらに自らが体験した取り組みを通して、安全で、楽しく、継続的に実施する健康づくりのあり方をクラスみんなで共に考え、学んでいます。



## 世代間交流専攻コース

ボランティア活動は楽しく！

稗田 雄三



私はこの5年間、受講生の皆さんの明るくて熱心な受講態度と前向きな学習意欲に支えられて楽しく担当することができました。私は、「人間、楽しくなければ学ばない」と思っています。最初の出会いが楽しければ興味を持って続け、さらに楽しさを増幅させ色々なことを学びます。そこで、受講生の皆さんがこれまで蓄積された知識や技能を子ども達に伝えてもらうため、「最初の体験で楽しみ、感動を！」を念頭において、おもちゃづくりや自然の中での遊びをツールに講座を展開しました。また、実際に子ども達と接して様々な体験をして貰うため、ビックバーンや関西大学、地元小学校等の交流活動を実施しました。子ども達や学生に囲まれた受講生の皆さんの笑顔がとても印象的でした。

本来、子どもは日常生活や仲間との遊びの中から様々なことを体験的に学んでいきますが、子どもを取り巻く環境の変化から現在、その機会が著しく減少し、生活体験や遊びで培われていた「状況判断能力」や「対人コミュニケーション能力」などが低下し、様々な問題行動を起す一因となっています。



今、地域で子どもに生活体験や自然体験、世代間交流体験など様々な体験学習の補完の機会をつくり、家庭や地域で共通の認識をもった価値観で「モノを考え行動できる能力」や「人の関わり方」を学び、たくましく生きていく力を育てることが必要です。今年度で残念ながら、この養成講座は終了しますが、幸いなことにNPO法人大阪府高齢者大学校で世代間交流の講座を開かれるとの事ですので、ぜひ、地域で活躍できるボランティア養成を続けてほしいと願っています。また、今年度から家庭・学校・地域の枠組みを越えての「学校支援地域本部事業」が文部科学省で始められました。これは学級内での授業補助、学校内でのボランティア、通学等の地域でのボランティアの3つの分野で補助を求められています。その担い手として様々な豊かな経験や知識を有するシルバーの皆さんに期待をもちたいです。「自分がなにを

やりたいのか?」、「自分はなにができるのか?」などをしっかりと認識した上で、ぜひ参加し、楽しみながらボランティア活動を続けてくださることを願っております。最後になりましたが、5年間ありがとうございました。

## 都市環境コース

S A 養成講座都市環境コースは、21年のS A 講座の歴史の中で、最も新しいコースで2006年(平成18年)に開講されました。縁あってその講師を務めさせていただきましたが、この3年間は、私にとって新たな視野を広げ多くの貴重な体験と学びを得る機会となりました。正直に申し上げて、この講座にかかわるまで私はシルバーアドバイザー養成講座の存在を知りま

遠藤 尚美  
せんでした。私は緑化分野の仕事を専門としており、緑化の計画や設計とともに、10年ほど前から公園や地域などで活動する緑化ボランティアの育成にかかわっています。シルバーアドバイザー養成講座には世代間交流、地域活動、健康増進、福祉IT、都市環境コースと多様なコースがあり、いったいどのような内容でどんな方々が受講されるか興味と期待と不安の入り

混じったスタートでした。まず、一番驚いたのは受講生のみなさんが、若々しく好奇心旺盛で生き生きとされていること。仕事や社会の中でこれまで培われてきた知識や経験が想像していた以上に非常にレベルが高いこと。そして機動力、行動力、協調性、包容力、柔軟性にあふれていることです。一年のしめくくりの学習発表会でのそれぞれの専門コースと地域活動の発表成果を拝見してきましたが、このような能力をお持ちのみなさんが第一線を退かれていることは社会の損失ではないかと感じたほどです。今後、シルバー世代の能力は社会を支える力としてより求



められ大切な役割を果たすと考えられます。さて、都市環境コースでは私たち身近なところからゴミや水、温暖化やヒートアイランドなど気候や災害と日常生活のかかわり、緑の役割や防災など幅広い切り口で現実を知り、個人や家庭、地域レベルで何をすべきかを学び実践してきました。毎日の生活がいろんな環境と繋がっている事を意識していただくだけで、環境改善の第一歩になります。最後にコースや地域に限らず、どうぞみなさんの連携した力でよりよい社会づくりのサポートをしていただきますようお願いいたします。

## 広報委員会・広報誌部

### 【ホームページのご案内】

SAホームページは、5年前に開設され、連協の活動をタイムリーに更新・掲載しています。

現在は、連協全体の情報だけでなく、各地区〔都市〕ごとに、専用のページを設けて地域の活動状況を掲載して、会員の皆様のお役にたっています。

皆さんの活動状況の記事、写真など、地区の

委員にお寄せください。詳細は 画面をご覧ください。

SAホームページ を見るには、検索画面に【SA連協】と入れればTOPに表示されます。URLは【<http://sa-renkyo.com/>】です。お気に入りに入れて ご利用ください。

HP部会長 森 孝二（吹田 18期地活）

### 【編集後記】

本誌の編集を担当し、はや一年が経過しました。SA入会一年生で、連協についても地区SAについても何も分からないままのスタートでした。しかし、編集会議での先輩諸氏のご指導や編集作業を通じて、連協の現状や課題について少しだけですが勉強できたと思います。

連協の広報手段としてはホームページもありますが、会員の皆さまの多数はパソコンや

ネットの操作は縁遠いという現状下では、「シルバー通信」は事務局と会員の皆さまとをつなぐ重要な役割、との思いで頑張りました。しかし、反省すべき点も当然ありますし、会員諸兄姉の忌憚の無いご意見を頂ければ、新年度の紙面づくりの参考資料となりますので、よろしく願いします。

1年間ご愛読有難うございました。

松本 勉（茨木 20期福祉IT）